



■■ 令和2年10月27日(火) ■■

～文化と自然に触れたウポポイ訪問。女性部長研修会を開催～



栄東連合町内会女性部(村木紀子・女性部長)主催の「女性部長研修会」がウポポイ(民族共生象徴空間)で開催されました。この研修会は、新型コロナ禍で女性部長会議や健康ウォーキングが中止となる中で、アイヌ文化を学びながら各町内会の女性部長同士が交流を深める目的で開催されたものです。検温、消毒はもちろん、参加人数を制限するなど感染予防対策を行い、各町内会から18名が参加しました。

バスの車窓から赤や黄に色づいた紅葉を楽しむこと約1時間。ウポポイ到着後、まず体験交流ホールで伝統芸能「シノツ(アイヌの歌・踊り・語り)」を観覧しました。ここでは各地域で儀礼や日常のいろいろな場面で親しまれてきた歌と踊り、楽器演奏を臨場感溢れる映像と共に楽しむことができ、その日は「鶴の踊り」・「熊の霊送りの踊り」・「ムックリ(口琴)演奏」が上演されました。迫力ある公演に参加者の皆さんも釘付けでした。

男性の手仕事である木彫りの見学(写真上)と女性の手仕事である織物の見学(写真下)



その後、国立アイヌ民族博物館で、アイヌ文化で使われていた道具や衣類、資料などの展示品を見学し、特別展では現在活躍中の作家や担い手が継承されてきた技術や感性を表現した創造的な作品の数々を鑑賞しました。その他にアイヌの生活空間を体感できるチセ(家屋)や、アイヌの手仕事に関する解説とともに、民芸品(木彫りや刺繍)製作の実演を見学しました。

気持ちの良い秋晴れの中、豊かな自然に囲まれた園内を散策した参加者からは「久しぶりのお出かけでリフレッシュできた」「またこのような研修会を開催して欲しい」という喜びの声が上がりました。各行事の自粛が続く中、文化と自然に触れながら女性部長同士の交流を深められたことで、参加者にとって思い出に残る1日となったことでしょう。



昔のチセを再現したもの(写真上)とチセの内部の様子(写真下)

■■ 令和2年10月22日（木） ■■

～防火徹底を呼び掛け、栄東に拍子木が響く～



10月15日から31日までの17日間、「秋の火災予防運動」が実施されました。その期間中の10月22日、ザ・ビックエクスプレス栄町店で「東区街頭防火キャンペーン」が実施されました。

同店前に集まった方々は、栄東地区の防火委員、栄東ひのまる少年消防クラブ、東消防団丘珠分団、東消防署員など約40名で、中谷暁生・栄東連合町内会防火防犯部長、大井直樹・東消防署長の挨拶の後、「火の用心」の法被をまとして同店周辺をパレードしました。「火の用心！（カーン、カーン）、ただいま秋の火災予防運動を実施しています。寝たばこは絶対にやめましょう。家の周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。」と拍子木の音とともに呼びかけました。

また、パレード後に同店前で、防火委員や少年消防クラブの子どもたちが訪れたお客さんたちに防火啓発品を配布しながら防火の徹底を呼び掛けていました。例年、ストーブを使い出すところに火災が増加します。今一度、火の元に十分注意を払いましょう。



■■ 令和2年11月7日（土） ■■

～町内会も ZOOM 時代に！体験防災研修を開催～

ZOOM 体験を取り入れた模擬防災会議（防災訓練）が栄東地区で開催されました。主催は、栄東地区子ども未来会議（代表：菊地裕嗣・栄東連合町内会長）で、これは、今年度策定した「栄東地区まちづくりビジョン」の3本柱の一つ「安全安心に暮らせるまち」の実現に向けた取り組みのひとつです。日の丸会館に集まった栄東連合町内会の役員や4つの分区の代表者など33

↓ 披露された広報車と講義風景



名は、ZOOM の使い方の研修を受けたのち、5つの部屋に分かれ集中豪雨によって栄東地区に洪水の危険があり、町内会役員などが集まって被害の状況の情報共有や避難所開設の支援を協議するという想定で模擬防災会議を実施しました。

前段の講義で栄東地区でも、豊平川が決壊した場合の洪水やゲリラ豪雨などによって道路に水が溢れる内水氾濫の危険性があるとの話がされたこともあって、皆さん真剣な表情でオンライン上のやりとりを体験していました。最後は、北海道胆振東部地震のブラックアウト時に地区内で広報手段がなかったという反省から導入した広報車が披露され、研修を終わりました。

同未来会議では、地区内の町内会等で希望があれば、ZOOM 研修・体験会を継続して実施する予定です。

↙ ↓ それぞれの部屋に分かれてオンライン会議を体験する様子

